
緋弾のARIA【 零 】

Bigsky

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア 【 零 】

【Nコード】

N 8 7 4 3 Z

【作者名】

B i g s k y

【あらすじ】

暁 空 （あかつき そら）は普通の高校生だが、非日常的な生活を始め、『緋弾のアリア』の世界で武偵になりたいと願っていた。ある日、マンホールから足の生えた箱（？）を引っ張り上げ、お礼として願いを叶えてもらう。武偵にしてくれと。

緋弾のアリアの世界で原作ブレイクしまくる空の運命はいかに？！

エピソード（前書き）

初投稿です。

まだまだ下手なのですが楽しんでくれる小説を書きたいと思っています！

よろしくお願いしますm(・)・(・)m

エピソード

暁 空

俺の名前。

漢字が2つ。

とか思ったやつは逝け。

まあただの中3です。

妄想癖の。

なんか悲しい過去があるとかはまったくない。
普通オシリー。

そんな俺に、
ある日すごいことが起きた。

.....

3月3日

（武偵高にいけたらなあ…）

一応普通科の私立への進学が決まっているが、妄想癖のため普通から逃げたがる傾向がある俺は学校帰りにそんなことを考えていた。

すると、

『おい』

誰かに呼び止められた。

振り返るが誰もいない。

まわりも見回したがどこにも声の主は見当たらない。

「誰だ？」

『ここだ』

「っ！下！？」

のマンホールから聞こえたぞ。

『おう』

俺は歩き去った。

『まていつつつっ！！！？！』

するといきなりマンホールから糸？みたいのが伸びてきて俺に巻きついた！

「うおっ！？なんだこれ？！！」

『人の話を聞けっ！』

「いや怪しすぎるだろ！っーか怖いだろ！姿見せろ！！」

『助ける』

「は？」

『でられん』

なんか地中人に助けを求められた史上最悪の誕生日でした。

おわり。

『いやおわらせんなああああ！……！』

「はいはい」

『引っ張りあげろ！』

…めんどくさいけど引っ張った。

が、

ぎゃあああ！??なんか追ってきた!?

キモイ!走り方キモイ!しかも速え!!!

お いつ か れ たああうわあああああああ
あああ!!!!!!???

ドゴオッ!

箱にドロップキックされ(?)
俺は前のめりに吹っ飛んだ。

近くの空き地に逃げたのだが人がいなくて幸いだった。

「っ!いつてえー!」

「何故逃げる!」

なんかビグ。ムの正方形バージョンみたいなのが馬乗りになってる。
しかもめっちゃ重い。

「キモイ!」

「人を見た目で判断するなア!!!」

かなりリアルだがそれでも機械だとわかる声で怒鳴り俺の横腹を蹴
ってきた

「ぐはあっ！！！？！人？！………お、俺になんのようだ………！」

「お礼」

「お礼がドロップキックとは嬉しくねえなあ！！？」

「お前が逃げるからだ！！」

「……で、なに？早くお礼でもなんでもして逝ってくれ」

「……ふん。じゃあいおう。なんでも好きな願いを叶えてやる」

「………上限は？」

「ない。金から宇宙滅亡までなんでもだ」

「噓つけ」

「本当だっつー！！！」

げしっ！また横腹をを蹴りやがった。

「ぐあああ！！！？同じところを………っ！」

「早くいえ。帰るぞ」

「ちよつとまで……！」

箱の分際で……！

それはそうと

願い。

緋弾のアリアの世界で、武偵となること。

別にこの世界じゃいいことなんてありやしない。
この世界は普通すぎて飽きた。

普通じゃない世界にいくことが俺の願いだ。

しかし、この箱にそんなことできるのか？

確かに未来的な感じだけど箱だしなあ…

「・・・あー・・・じゃあ俺を『緋弾のアリア』…わかるか？その世界につれていって武偵にしてくれ」

「あと2つ」

「え？3つもいいの？

しかも願いについてはノーコメ？」

「……………」

「んー・・・じゃあ絶対的な射撃の腕」

「あと1つ」

思いつかん…

そういえばその世界に行くってことはアリアたちもいるってことだよな？

「最後の願いは・・・アリアたちと接触できるようにする。」

「了解。転送。」

「展開はやああああ！！！！」

俺の意識はいったんとんだ

.....

再び目を開けたのは同じ場所だった。

なにも変わっていない。

正方形ビグ。ムが消えたのを除いては。

「やろー... やっぱ嘘つきやがって」

正直がっかりだった。

なんかいきなりラノベ的展開に巻き込まれて（現れたのは美少女でなくビグ。ムもどきだが）武偵になれると思っていたのに。

胃にも心にも空腹感をおぼえた俺は家に帰った

これが俺の人生を180度変える出会いとはしらずに。

エピソード（後書き）

まだ緋弾のARIAとは全く関係ありません。
箱もあとからなんなのかわかるので…

エピソードで飽きたかたも面白からうが面白くなからうが本番はこれからなので読んでいただけると感激！です。 m (・・) m

第一弾 新世界（前書き）

本番まで長かった…

でも第一弾です。

第一弾 新世界

家に帰ってから俺は「緋弾のアリア」を最初から読み直していた。

読めば読むほどさっきの出来事が脳裏に浮かぶ。

（なんだったんだあの箱は…っ！かなんでマンホールに？っ！か願いは？あああああああああ）

途中だったけどもう1時をまわっていたから寝た。

.....

「うわああああああっ！！！！！！」

100個ぐらいの箱に追っかけられる夢見た。

「あんにゃろー…」

目覚めが悪いまま顔を洗い朝食をとった。

家族は寝ているようで閑散としている。

父と母、あと十歳近く離れた弟と妹の5人家族。

普通の1世帯です。

カップラーメンにお湯をいれ、蓋をしてテレビのリモコンの電源ボタンを押した。

「……………て、東京武偵局はこの船舶沈没事件についてはどう対処したのですか？」

は？

いまなんつつた？

「この船舶沈没事件は沈没を阻止できなかったその武偵に責任があるのではないですか？」

・・・だが待てよ。

俺もう進路決まっちゃってんじゃん！

無理じゃん！

武偵高校いけねーじゃん！！

しまったあああ！そこの忘れてたあああああ！！OTZ」

「おう、空。おはよう」

頭の中で絶叫してた俺に起きてきた父が声をかけた。

「なんでお前泣いてんだ？具合でも悪いのか？」

「いや、なんでもない。なんでもない……」

「まあいいか……お、豪華客船が沈没したってやつか」

俺もテレビに目を移した。

（あ……これキンジの兄貴の……！）

そう、キンジの兄、金一武偵がのっていた豪華客船が突如沈没、しかし乗客は全員無事。1人の武偵を除いて。ってやつ。

でもこれって理子がやったんだよな。
カナも生きてるし。

メディア無能だなw

「お前が武偵になったら役に立てる武偵になるんだぞ。」

「はい？」

「はい？じゃないだろ。お前今日から転校だろ？」

「嘘つけ」

「嘘じゃねえ。今さら逃げる気か？」

・・・

「今何月？」

「4月だろ」

「ここどこ？」

「殴るぞ」

俺は窓にダッシュした。

どこだよここ。

なんか知らないところだった。

ビル、ビル、ビル。

コンクリートジャングルってやつ。

俺の住んでた都内、しかし田舎。

とは全く違う。

つーかここ何階だよ！マンション？！

変わったのは世界観だけじゃなかったのか？
時間も変わってる？！

いやだって俺昨日。#*/（、旦、）

「今何時？」

「テレビ」

テレビの時計は7：36だった。

「学校までどのくらいかなー？」

「バスつかつて1時間ぐらいだろ。結構不便じゃないか？別に寮とかでもいいんだ」CHIKOKU！！！！」

俺は部屋に戻って制服（何故武偵高のがあるんだ！）に着替え、体積の増えたラーメンを1分ですすり家をでた。

「遅刻はしたくない！つーかバスは！？バス停知らねーし！！学校の場所知らねーし！！自分ちの場所すら知らねーし！！！」

そこから5分くらい走り回り、やっと武偵高行きのバスをみつけた。走行中の。

「待てええええええええええ！！！！！！！！！！」

待ってくれるはずもなく、俺は走ってだいたいの土地勘で高校を探しましたとさ。

.....

「…………ゼエ…ハア、ゴホツゴホツ…遅刻…かな」

武偵高の人口浮島についたのは9時過ぎ。
遅刻確定だ。

つか

「生徒棟はどこだ…」

左右に建物が並びまくりで陸地とそんな変わんねーじゃん！

遅刻という重罪をさらに時間の経過で重くしながら俺は歩きまわった。

ズガガガガガンッ！！！！

ドン！！ドガンッ！！ドンッ！！！！

突然、左からすごい音が聞こえた。

「まさか…」

俺はこっそり覗きに行くと
いた。やっぱりいた。

キンジだ。しかもヒステリアモードの。

体育館のまわりは鉄の残骸が散乱してあたり一面煙が立ちこめてい
る。

今やったのか。てことは今日が始業式か。
こりゃちょうどいい。

ズカンズカンッ！！

あ、そういえばアリアもこの日転入してきたんだよな。
同時に転入ってわけか。

キンジが転がってきた。

あ、アリアだ。

やっぱ

かわいい…

しかもちっこー！！

「逃がさないわよ！私は逃走する犯人を逃がしたことは！一度も！
ない！ーーーーあ、あれ？あれ、あれ？」

「ごめんな。」

おお、名場面！

キンジがアリアのガバメントのマガジンを投げた。のはよかったのだが

こつちに。

キャッチ！

は2本同時は無理でした。

でもこんぐらいもキャッチできない俺ってこの先……（うるうる）

ゴツッ

「ぎゃー」

「?! 誰!？」

アリアだけが驚いている。からしてキンジは気づいていたらしい。

「・・・キャッチしてくれると思ったんだが・・・すまなかったな」

「誰よソイツ!・・・っ!ま、まさかアンタの仲間?!ふ、ふ人してワタシになにする気なの!?!?」

変態扱いされちゃったよ。

「君、見ない顔だが転校生かなにかかい？」

「あ、ああ。今日転入することになった（らしい）」

「そうか。よろしく。俺は遠や「ちょっとアンタ達！変態同士で話してないでワタシに捕まりなさい！」」

「俺は変態じゃねえ！！！」

「うるさいうるさいうるさい！」

強猿男らは神妙に——わおきゃっ！」

すっ転んだ。悲鳴がかわいー

「逃げるぞ」

キンジに耳打ちされ、俺はそれに従った。

「こ、この卑怯者——！！」

でっかい風穴、開けてやるんだからあ——！」

新世界での初の出会いだった

第一弾 新世界（後書き）

この連載、かなり長くなる予定です…

よかったです最後まで付き合ってくださいッ！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8743z/>

緋弾のアリア【零】

2011年12月28日01時47分発行